

# 水辺の散乱ゴミの指標評価手法(海岸版)

全国の海岸に面する市区町村の協力のもと、各市区町村は管内で調査地点を偏りのないよう6箇所選定し、その箇所ごとの海岸線延長約100mについて、次を行いました。

## ① ゴミ漂着状況を写真撮影



写真撮影のイメージ

写真の例



海側方向



右側方向

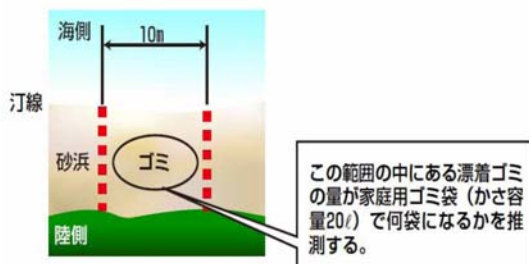


写真の例

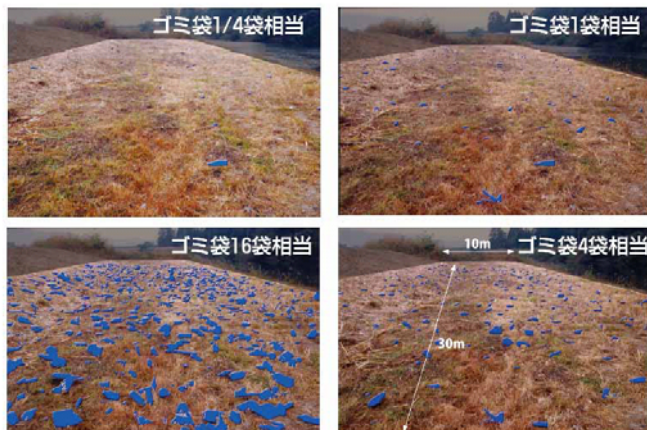
陸側方向

## ② 目視によるゴミ漂着量の推測

調査箇所100mのうち、漂着ゴミの状況が代表的(平均的)な海岸線延長10mを目視し、下の表や写真を用いて漂着しているゴミ(人工系)の量を推測した。推測結果は①の写真を用いて有識者らによる再確認も行っている。



青い部分がゴミ



### ゴミ袋の数量表

〔海岸線延長距離10m〕×〔海岸の奥行き〕の範囲の漂着ゴミを回収したと想定

ランク	ゴミ袋の数量(袋) (20ℓ当り)	回収した際のゴミのかさ容量の表現として	かさ容量 (ℓ)
0	0	(自然物を除いて) 全くゴミがない	0
1	約 1/8	500ml のペットボトルならば 3~4本分程度	2.5
2	約 1/4	2ℓのペットボトルならば 2本分程度	5
3	約 1/2	200~350ml の飲料缶ならば 15本分程度	10
4	約 1	2ℓのペットボトルならば 8本分程度	20
5	約 2	200~350ml の飲料缶ならば 30本分程度	40
6	約 4	ポリタンクならば 1本分程度	80
7	約 8	2ℓのペットボトルならば 16本分程度	160
8	約 16	ポリタンクならば 2本分程度	320
9	約 32	2ℓのペットボトルならば 32本分程度	640
10	約 64	みかん箱ならば 3個分程度	1,280
	約 128	ドラム缶ならば 1本分未満	2,560
	約 256	ドラム缶ならば 1.5本分程度	
	約 512	ドラム缶ならば 3本分程度	
	約 1024	1立方メートル程度	
	約 2048	軽トラックで1台分程度	

※ 水辺の散乱ゴミ指標評価手法は国土交通省、JEAN/クリーンアップ全国事務局、特定非営利活動法人パートナーシップオフィスが協働で開発したものです。